

フープ

女性建築士の輪

NO. 104

2022年 冬号



信貴山朝護孫子寺

目次

- ただ今、実家空家利活用計画中！
- 福祉まちづくりセッションに参加して
- HUG 避難所運営ゲームに参加して
- 第6回くらしとすまいをみつめる継続セミナー

私の好きな場所

- 『VISON』～三重県多気郡多気町～
- 民家の勉強会 茶室編(1)(2)開催のご案内
- 編集者が選ぶフォトジェニックスポット

前田 晴子	P 1 - 3
寺岡 春恵	P 4
福永 香奈	P 4
庄田 尚代	P 5
中西 佳奈	P 6
岩城 由里子	P 7
	P 8

ただ今、実家空家利活用計画中！

前田 晴子

昨年11月20日（土）建築士会全国大会「景観・街中（空き家）まちづくりセッション」にZoomでパネリストとして参加致しました。

ひょんなご縁からご依頼があり、この様な大きな舞台での発表は何度も固辞しておりました。不慣れなZoom、パワーポイント、自宅発信と不安だらけな為、女性委員会庄田委員長にお願いし、大きく助けて頂きました。お礼申し上げます。

では、当日の発表内容を記させていただきます。

【 突然空家の所有者に！ 】

2019年春兵庫県の実家に住んでいた姉が病死、2か月後に母も死去し実家が突然空家になりました。もう一人の姉の希望もあり私が実家を相続することになり、突然空家所有者になりました。当初より解体のつもりはなく、大きなストレス半分楽しみ半分の「空家古民家利活用計画」が始まってしまいました。

ここでは「空家を所有する当事者」としてお話をさせていただきます。

実家は旧大坂道（大阪から有馬へと続く街道であった）に面し江戸時代後期築と思われ、実家と同じ様に古い隣家（下写真の左）は共に「伊丹市都市景観形成建築物」に指定されています。又隣家は改修工事をされ2020年より「町家シェアオフィス」として古民家利活用事業をされています。



空家になった実家。郷町といわれ酒造りで賑わった街であった

【 空家所有者のストレス 】

奈良の自宅から実家迄は片道2時間かかり、草刈り等の管理、相続により発生した固定資産税、火災保険代、光熱費、町会費、往復の交通費等、金銭的負担が大きく増え驚いています。今実家は正にマイナス負債資産です。空家を所有する者には大きな悩める現実です。「マイナスが続くようでは維持ができない、なんとかしないと」「空家利活用を考えよう」「奈良から離れるつもりはないので、どなたかに利活用をしてもらおう」私の切実な悩みです。

【 信頼できる相談者 】

空家改修見学会に行ったり、行政後援・建築士・不動産業者等ワンストップで相談できる講演会にも行き個別相談を受けました。私の担当相談員は不動産業者で「古い家は価値がない。維持費がかかるだけ、更地にして売却を！」と夢の無いアドバイスに正直腹が立ちました。明日連絡するとの事でしたが、又連絡がない為私からもメール問合せもしましたが一度も連絡はありませんでした。

「信頼できる相談者」を見つける事が「空家利活用を考える者」にはとても重要です。

偶然にも隣家の古民家改修をした工務店社長様と設計担当様（両者共に建築士会所属）と知合う事ができ、信頼できる相談相手ができたと思いました。

又祖父の代から既知の不動産業者に家賃の相談をしたり、税理士事務所に事業の経営相談をしたり、市教育委員会文化財担当者、親族等と相談しながら現在計画を進めている所です（コロナ禍でなかなか県を超えての移動ができず計画も思う様に進みませんが）。

幸いにもご紹介で「古民家を貸して欲しい」と言われる団体があり、実際にどの様な事業内容にするかを今後詰めていく段階です。事業内容は平面計画や消防設備等、工事費に反映するので重要です。

【 歴史、土地や風景の記憶をつなぐ 】

私の考える大きなコンセプトは「地域と子供に開かれた場」です。そしてシビアに実家を維持可能な収入も必要です。「自分のものでもないのに古い酒蔵が解体されマンションになりショックやった」との声を聞いたり、今年になり同じ通りの古い日本家屋が解体されマンション計画に、春には向かいの古民家も解体されました。



井戸のある土間

「実家は絶対壊してはいけない」「これ以上この通りの風景を変えてはいけない」という気持ちが強くなっています。

「あそこ行ったらなんかいいね。なんかおもしろいね」そんな場所にしたいなと、ただいま「古民家利活用」を絶賛計画中です。

以上が昨年の発表内容でした。

しかしその後、借りたいと申し出た方が昨年末に辞退される等トラブルもあり計画は暗礁に乗り上げ、現在全くの振り出し状態に戻ってしまいました。

2019年夏に空家になり「なんとかせねば」と焦りもありました。奈良の自分の生活と実家管理等と正直落ち着いて考える時間も勉強も不足していました。

1回目の計画トライが失敗に終わり今は少し「空家利活用」を考えるのに疲れてしまった状態です。

解体、売却も頭の片隅にあります。

親族等周りから「何もしなくていい」「焦らずゆっくりしたらいい」と言われています。

ただ実家空家を将来どうするかは考えなくてはいいけません。私自身も資金体力が不足しているので、いつまで維持できるか不安を抱えています。

「空家所有者」というのは不安に満ちています。

どうか建築士のお一人お一人が「良き相談者、良き話し相手」になって頂くことを「空家所有者の当事者」として切に感じます。

勿論私の勉強も必要です。

もし興味を持って頂く方がいらっしゃいましたら、アドバイス等を頂けると嬉しいです。

人の気配がなくなった実家でもいつもの木にいつもの花が変わらず咲きます。私の存在する意味って何？ご先祖様どうしたらいい？などと時々お話をしています。



床の間のあるお座敷



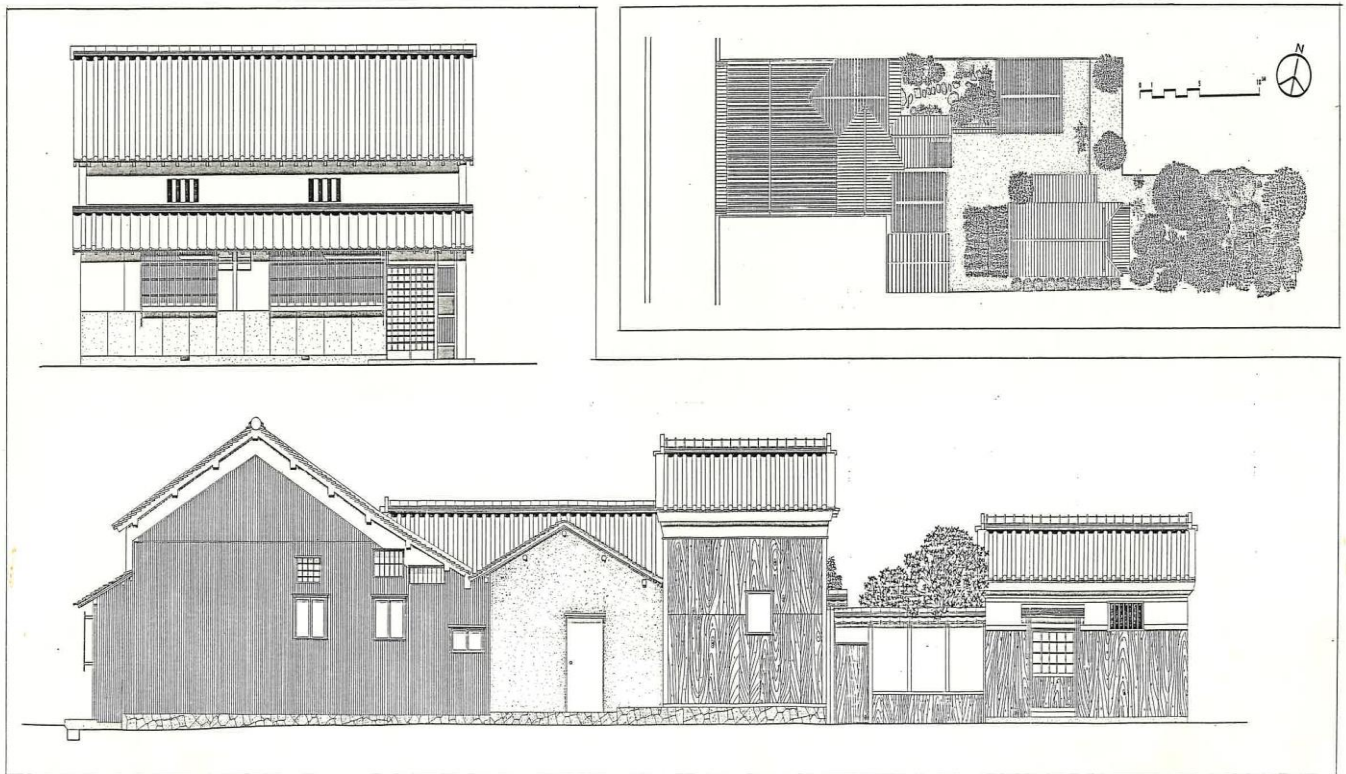
三間続きの和室。仏壇と壁面タンスがあります



お座敷からの前栽の眺め。四季の風、匂い、風景などを感じ、大好きな場所です



通り土間の天井。昔はへっついさんのある台所でした



「伊丹市都市景観形成建築物」認定資料の写し。江戸時代後期築と考えられる、とのこと。

母屋：木造厨子二階建 切妻造 本瓦葺き 土蔵、離れ、納屋等あり

建築士会全国大会 広島大会
福祉まちづくりセッションに参加して

寺岡 春恵

2021年11月20日、全国大会が広島で行われる予定でしたが、コロナ感染症の影響で東京 浜松町コンベンションホールよりオンライン配信にて開催されました。

福祉まちづくりセッションは、福祉まちづくり部会 部会長 中村正則氏、他数名の方が同会場より司会進行を務めていただく中、私は、パネラーとしてオンラインで参加しました。

「コロナ禍から見えてきた福祉まちづくり部会活動の姿」ということで、各地域の福まち部会の方々のコロナ禍での活動の様子をお聞きすることが出来ました。

神奈川県建築士会では、「専門職連携 住宅改修研修会」を医療、福祉の専門家の方々と建築士とでオンラインでブレイクアウトルームを活用したワークショップを行ったという発表をお聞きしました。

「ご主人に脊髄動脈奇形があるご夫婦の住宅改修」というお題で、チームに分かれ図面を共有し意見を出しあいながらPLANをつくり最後に、各班に発表してもらい、お題提供の講師から実際の改修内容の解説をしてもらうという研修会だったようです。

この様にオンラインを使つてのワークショップの可能性をお聞きすることが出来ました。

また、徳島県では、介護保険・住宅改修適正化事業の一環として「県介護ケア・アドバイザー」の派遣業務を建築士会で受け、住宅改修におけるプランの内容や見積書の確認、施工業者への説明や助言などをおこなっており、そのアドバイザー養成のための研修会をオンラインで5回開催されたとのことでした。

私たち奈良の福まち部会でもオンラインを活用した「インクルーシブ防災」のDVD視聴などを通して今後の活動のスキルを身につけることができたことなどを発表させていただきました。

オンラインを活用してのコロナ禍での活動をお聞きすることが出来、どのような状況下でも前に進むことが出来ることを実感でき、有意義なセッションの時間を過ごさせていただきました。

HUG 避難所運営ゲームに参加して

福永 香奈

2021年12月5日、ガールスカウト奈良県連盟の指導者研修会として、桜井小学校体育館を会場に生駒支部・桜井支部合同で『HUG 避難所運営ゲーム』を行いました。

ガールスカウトを指導している成人会員の自己研鑽が目的です。教える側の立場だったのですが、私は初めての参加でした。5～6人のチームに分かれて架空の小学校、体育館・校舎のパネルに次々やってくる避難者カードを配置していくのですが、持病がある方・妊婦・高齢者と事情は様々。そこにトイレのトラブルやマスコミ対応、総理大臣の視察までやってきてゲームでありながら理路整然と進めることは難しいと感じました。

今回は普段からガールスカウトの子供たちを指導しているリーダーの皆さんだったので、決断すること・指示すること・初対面の人と作業することに慣れておられたように感じました。これが訓練されていない方たちの間で行われるとなるともっとも問題が起きるだろうと体験しておくことの重要性を感じました。



左：会場の桜井小学校体育館は地場産の材木が使用されています
右：最初にチーム内で役割分担を決めてスタートします

厚着をしていても長時間座っていると下から冷えてきて、体育館の床に直に休むことの厳しさも感じました。災害は必ずやってくるものとして、自身で最大限の備えをしておこうと思いました。

建築士として出来ることは少ないかもしれませんが、一市民としてより多くの方に一度体験して頂きたいゲームでした。

第6回くらしとすまいをみつめる継続セミナー

『すまいの温熱環境について学ぶ』

～快適な温熱環境ってなんですか？～

庄田 尚代

近畿建築士会協議会女性部会（近建女）では、「くらしとすまいをみつめる」をテーマに、ストック社会に向けた課題の解決法として、建築士が知っておくべきことを学ぼうと継続的にセミナーを開催しています。

6回目となる今回は、11月5日（金）18時から20時、奈良女子大学大学院久保博子教授を講師にZoomミーティングで、私達の身近な住まいの温熱環境について学ぶための勉強会が開催されました。

参加者は41名（内、士会会員以外の参加は7名）

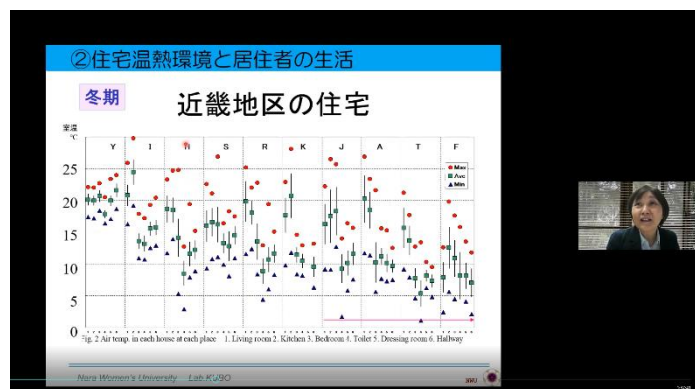
講演内容

（1）実際どのような温熱環境で居住しているのか？

- ① 自然環境と環境共生住宅での温熱環境は？
- ② 一般的な住宅での居住者はどのように生活しているのか？
- ③ 住まい方（省エネ感覚、好み）は温熱環境に影響を与えるのか？

（2）暑さ寒さと私たちの健康への影響

- ④ 温熱環境による健康被害の実態
 - ⑤ 暑さ寒さと体温調節反応
 - ⑥ 睡眠と入浴の健康影響
 - ⑦ 住居内での温熱環境の危険性と生活上の注意
- 多くの調査、実験データをもとに、快適な温熱環境について久保教授にお話していただきました。



勉強会の様子（右：久保博子教授）

講演後、チャットでは、「省エネ感覚とは、なるべく冷暖房設備に頼らず、我慢をするということ

でしょうか？」「省エネ意識と好みの温度の話で、個人や地域による差はどのようなものでしょうか？」

「調査の中で面白い工夫をされている住まいについて知りたい」などの沢山の質問がありました。

セミナー後の実施アンケートでは、「図表を多く用いた説明でとても分かりやすかった。」や「WEBのため詳細なデータがよく見えた。」などオンライン勉強会のメリットを感じる声が多く聞かれました。その他、「高齢者の住生活と温熱環境の関係について参考になった。」「体感と実際の生活温度との差が解って良かった。」「今後の設計業務の参考になった。」「皆がどのような姿勢で仕事に取り組んでいるのかわかり勉強になった。」という感想がありました。



勉強会後の参加者の記念撮影

今後、私達は、差し迫った課題の気候変動やコロナ禍の状況で、仕事や日常の生活スタイルをさらに見直さざるを得ないになると思います。

引き続き、温熱だけでなくこれからの生活スタイルにあった住環境や建築のあり方、SDGsへの貢献についてどうあるべきかを考えていきたいと思います。

私の好きな場所

『VISION』

～三重県多気郡多気町～

中西 佳奈

コロナ過で中々旅行にも行けず、外出するにも、なるべく人混みを避け、密にならない日々が続きます。そんな中ですが、2021年7月 三重県多気郡多気町にオープンした「ヴィソン (VISION)」に足を運びました。日本最大級の商業リゾート施設で、産直市場「マルシェヴィソン」・温浴施設「本草場」・宿泊施設「ヴィソンホテルズ」と敷地面積は東京ドーム24個分、約119ヘクタールもあり1日ゆっくりと楽しめます。

まず産直市場「マルシェヴィソン」です。木材を使った建物は伊勢神宮の式年遷宮をモデルに20年に一度、一部の建替を計画しておられるそうです。



マルシェは、地元でとれた新鮮な野菜や海鮮など、海の幸、山の幸がお洒落に並んでいました。帰りに買おうと思った人参詰め合わせは残念ながら完売でした。



マルシェを抜けると、スウィーツヴィレッジ・アトリエヴィソン・セバスチャン通りと様々なショップやレストランが並びます。



セバスチャン通りにある「旅籠 ヴィソン」の外観です。「木造軸組工法」で建てられています。写真にはありませんが、蔵をモチーフにした「和ヴィソン」では、醤油や味噌、味醂が販売され、寿司・天ぷら・すき焼きなど「和の魅力」を味わえます。



ランチは、カキフライ丼とノンアルビールでした♪



気が付くと夕方近くになり、色んなお店で買い物したり食べ歩きしたりと楽しい1日になりました。HPにも案内されていますが、敷地が広く駐車場や歩道はアスファルトではなく、砂利が敷き引き詰められています。行かれる際は是非スニーカーでお出かけください。

「民家の勉強会 茶室編(1), (2)」開催のご案内
和室勉強部会 岩城由里子

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

和室勉強部会では、和の住まいの源流を探ることをテーマとして昨年度より「民家の勉強会」をスタートしました。今年度の勉強会は茶室に焦点を当て「民家の勉強会 茶室編」を開催します。茶室というと瀟洒な数寄屋建築のイメージがありますが、伝統的な民家や町家においても、おもてなしの場として茶室を備えているところが多くみられます。茶室ならではの空間構成と自然の素材を生かした自由な表現は、建築に携わる者にとっては大変興味深いところで、和の空間の魅力を学ぶには外すことが出来ないのが茶室です。

今年度のメインの勉強会として、今まで50件ほどの茶室作りに携われてこられた岩崎建築研究室（京都市）の岩崎泰氏を講師にお招きし、茶室設計の話をお聞きします。（3月17日）

岩崎さんの話をお聞きする前に、茶室の基本を学ぶ勉強会も開催します。（2月17日）

年度末のご多忙な時期とは存じますが、奮ってご参加いただけますよう宜しくお願い致します。

「民家の勉強会 茶室編」（zoom オンライン勉強会）

（1）茶室の基本

日時：2月17日（木）19時～21時

（2）岩崎泰氏講演会

日時：3月17日（木）19時～21時

どなたでもご参加いただけます。（参加費無料）

zoomでの開催になりますので、事前にzoomのアプリをダウンロードしておいてください。

※お申し込み方法

お名前と参加希望回（(1), (2), どちらも）を下記アドレスまでメールでお知らせください。開催までにzoomのURLをメールでお知らせさせていただきます。

岩城メールアドレス：frontdesign.nara@gmail.com

（私事になりますが昨年アドレスが変わりました。お手数ですがこちらのアドレスにお送りいただけますようお願い申し上げます。）

岩崎泰氏プロフィール

1973 年名古屋市生まれ。

1997 年京都大学工学部建築学科卒業、1999 年京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻修了。1999 年二村建築研究所入社、二村和幸氏に師事、茶室・数寄屋を学ぶ。2002 年裏千家茶道を始める。常廣宗睦氏、宗眞氏に師事。2007 年岩崎建築研究室を開設。岩崎建築研究室 HP <https://iwasaki-arch.com/>



お点前をされる岩崎氏



ご設計事例



編集者が選ぶ！

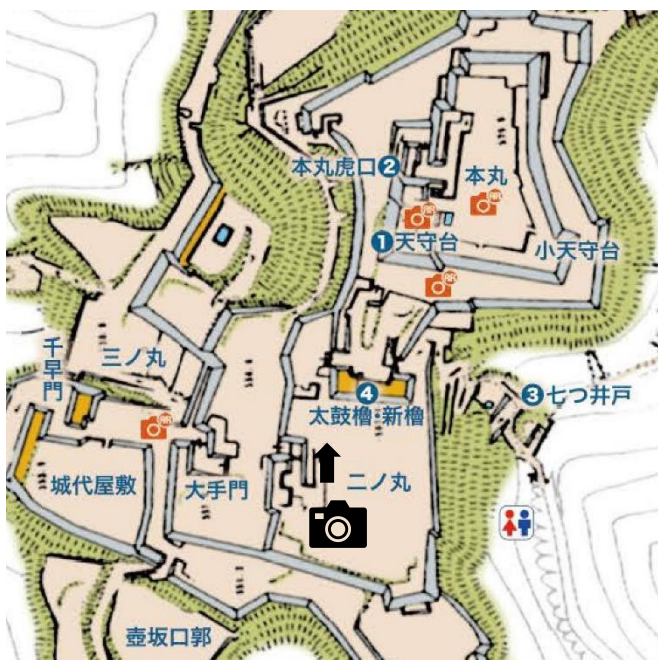
フォトジェニック◆スポット



高取城跡(太鼓櫓・新櫓)

美濃岩村城、備中松山城と合わせて日本三大山城とされている大和高取山の城跡です。標高584mの高取山の山頂に戦国時代豊臣秀吉が大和郡山城の詰め城として大修築を行い堅牢な城として完成しました。現在は石垣を残すのみですが、規模の大きさに当時の様子を伺い知ることができます。

■撮影場所 案内図



住所：奈良県高市郡高取町高取

今後の事業予定

2022 年

2 月

9 日 (水) 第四期建築士定期講習
(ポリテクセンター奈良)

16 日 (水) 監理技術者講習

16 日 (水) 第四期建築士定期講習
(ポリテクセンター奈良)

17 日 (木) 和室部会勉強会 1(オンライン)

3 月

16 日 (水) 監理技術者講習

17 日 (木) 和室部会勉強会 2(オンライン)

4 月

20 日 (水) 監理技術者講習

5 月

18 日 (水) 監理技術者講習

19 日 (木) 令和4 年度通常総会
(ホテルリガール春日野)

*新型コロナウイルスの感染状況により予定変更の可能性があります。

編集後記



明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。今年はカレンダーの関係でお正月が短かった方も多いのではないのでしょうか。我が家も家族 3 人 4 日から通常に戻り、お陰で正月太りせずに済みました。

フォトジェニックスポットに選んだ高取城跡には先日家族でプチ登山に出掛けてきました。壺阪寺に車を停めると往復約 2 時間の行程です。私も夫も登山が好きなので、息子が生まれてすぐに 22 キロまでの子供を乗せられる背負子リュックを購入して、あちこち背負って出かけていました。その息子もうすぐ 4 歳の 17 キロ。最近では自分で歩きたがることが多く、念のためそのリュックを持って出掛けました。

すると予想に反して、最初の階段を上ったところで『のる。』と言い始め、夫と交代でほぼ全行程、息子+リュックの 20 キロオーバーを担ぐ羽目になりました。思いがけない歩荷訓練となり、疲労困憊になりました。

苦労してたどり着いた高取城跡は美しい石垣と、大峰の山々を望む眺望が素晴らしく、日向ぼっこをしながらのランチは至福のひと時でした。

2022 年は県内に目を向けて、身近な新発見を探してみたいと思います。
(福永香奈)